学校番号	３０１６

令和３年度　家庭科

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	家庭総合　自立　共生　創造　（東京書籍）						
副教材等	2020　生活学Navi　（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

家庭科は、自分を大切にする力（自立）、他者と共に生きる力（共生）を互いに育てあう教科です。
これから社会生活を送る上で必要な知識技術を、自ら生活する者の立場で学び、自分らしい生活を創造していく力を身につけましょう。
・自分の人生や生活上の課題を、ワークや演習等を通して考え、理解を深め知識を身につけると共に、考察をまとめ、発信できるようにしましょう。また、他者の考察を知り、多様な考え方を学び、尊重すると共に、自分の考えを深めましょう。
・実践的・体験的な学習を通して、科学的な理解に基づいた確かな技術を身につけ、周囲の人を助け、リーダーとなることができる能力を身につけます。
・学んだことを自分の生活の問題として捉え、よりよい生活をめざしましょう。

2　学習の到達目標

人の一生と家族・家庭、子供や高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実を図る能力と実践的な態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて関心をもち、その充実向上をめざして主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて生活の充実向上を図るための課題を見いだし、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識を総合的に身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 プリントやワークシートの記述 レポート 実習記録、 調理計画、製作計画、発表 自己評価　等	学習状況の観察 プリントやワークシートの記述 レポート 実習記録、 調理計画、製作計画、発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 プリントやワークシートの記述 レポート 実習記録、 製作作品、写真 発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 プリントやワークシートの記述 レポート 実習記録、 調理計画、製作計画、発表 定期考査の結果等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期 4 5 6月	衣生活をつくる	○家庭科の学び方 ○被服の役割と機能を整理する。 ○被服材料の特徴を理解し、平面構成と立体構成の違いを学ぶ。 ○被服製作の基本的事項を確認し、自分に合った被服の製作ができる。 ＊エプロン製作実習 ○生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようになる。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a: 衣生活・文化に関心を持ち、人間と被服、気候と被服のかかわりを考え、被服材料、被服構成、縫製技術に関心をもち、被服製作に取り組もうとしている。 b:衣服の役割、被服材料、被服管理、適切な着装について考えを深めている。 c:調理実習で使用するエプロンについて、着装、被服材料、管理、性能、安全に配慮した被服計画を立て、被服製作ができる。 d: 着装、被服材料、被服構成、被服製作、被服管理などについて科学的に理解し、持続可能な衣生活の必要性を理解している。	授業観察 プリント ワークシート 製作計画 実習記録 レポート 製作作品 写真 定期考査

6 7 月	食生活をつくる	○食べることとはどういうことか知る。 ○消化管の働きを知る。 ○世界の食文化から人間は何を食べてきたかを知る。 ＊人間は何を食べてきたか ○ヒトの食性、食文化について学び、日本の風土の豊かさと食物との関係を知る。 ＊調理実習５回 （6月～2月）	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○ ○	a:自分の体、食生活に関心を持ち、日本の風土と食物の関係を考え、食生活の問題点を考えようとしている。 ・調理実習では、科学的な視点を持ち、総合力を養うため、積極的に取り組もうとしている。 b:現代の食生活と食事の意義について思考を深め、栄養と健康な食生活のかかわりについて考えている。 ・食品成分表を活用して、調理実習の栄養点検を行い、食事摂取基準との比較や使用した食品について、調査してまとめたり、発表している。 c:主体的に食生活を営むために必要な情報を収集・整理し、検討することができる。 ・食生活をよりよくするための調理に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、食品成分表を活用して、栄養計算をすることができる。 d:現代の食生活の課題、日本の風土との関係を理解し、栄養、食品、調理及び食品衛生など、食事と健康とのかかわりについて、科学的に理解している。 ・調理実習を通して、食生活の自立に必要な知識を身につけている。	授業観察 プリント ワークシート 調理計画 実習記録 レポート 発表 定期考査

8 9 月		○ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 ＊自由テーマ 調査研究、個人発表	○	○	○	○	a:ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。 b:生活上の課題を見出し、その解決をめざして科学的に探究し、表現している。 c:計画に沿ってホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を実践することができる。 d:ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の実践に必要な知識を身に付けている。	レポート 発表 自己評価 相互評価

後期 10 11 12 1月	食生活をつくる	○日本の風土で生きるために生み出した食物と文化・知恵を知り、伝承について考える。 ＊里山で継承されている文化を学ぶ ○近年の食生活の歴史と現代人の食の問題を知り、自分の食生活を振り返る。 ○食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。 ○日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 ○日本人の食事摂取基準や食事バランスガイドを知り、自分や家族に当てはめる。 ＊食生活点検 ○食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 ○食生活の自立に必要な基本的な調理技術を科学的な視点から学び、日常食を作れるようになる。 ○生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:先人の知恵・文化に関心を持ち、食生活と健康の関わりを考え、意欲的に食生活の改善・向上に努めようとしている。 ・食生活点検や食品成分表を活用して栄養計算し、食生活の問題点を考えようとしている。 ・調理実習では、科学的な視点を持ち、総合力を養うため、積極的に取り組もうとしている。 b:近年の食生活の歴史や食品をめぐる事例から、健康や日本の農業、食生活の安全性や環境について思考を深めている。 ・食品成分表を活用して、献立の栄養点検を行い、食事摂取基準と比較し、食生活の改善に向けて課題を調査してまとめたり、発表している。 c: 食生活をよりよくするための調理に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、食品成分表を活用して、栄養計算をすることができる。 d: 現代の食生活の課題、食文化、食品の安全性と環境についての課題を認識し、その知識を身につけている。 ・栄養、食品、調理及び食品衛生など、食事と健康とのかかわりについて、科学的に理解している。 ・調理実習を通して、食生活の自立に必要な知識を身につけている。	授業観察 プリント ワークシート 調理計画 実習記録 レポート 発表 定期考査

2月	住生活をつくる	○バリアフリーの考え方を理解し、身につける。 ○気候風土に応じたさまざまな住様式が存在することを学ぶ。 ○住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解し、持続可能な住生活とは何か考える。	○ ○ ○	○ ○	 ○	○ ○ ○	a:安全で快適な住生活や住まい方について考えようとしている。 b: 近年の安全な住環境の課題について考えを深め、まとめている。 c:よりよい居住環境を整備するために必要な平面図を読み取り、家族構成やライフステージ、生活価値観に応じた住空間の計画ができる。 d:住居の機能、住空間の計画、住環境など、安全で快適な住まいについて科学的に理解している。	授業観察 プリント ワークシート 定期考査
3月	生活を設計する	○今までの学習を踏まえ、キャリアの視点から生涯の生活設計に必要な要素をまとめる。 ○自分のめざすライフスタイルを考え、高校卒業後の生活設計を立てる。	○ ○	○ ○	 ○	○ ○	a: 生涯を見通した自己の生活設計について関心をもち、自己のライフスタイルや生活資源の活用の観点から、将来の生活設計について考えようとしている。 b: 資源を有効活用した生活設計について考え、工夫したり、自己実現をめざして、生活設計を考え、まとめている。 c: 生活設計の立案に必要な情報を収集・整理し、検討を行い、具体的な生活設計を立てることができる。 d: 充実した人生を送るために、生涯を見通した生活設計の必要性を理解し、生活設計の意義や生活設計に必要な要素など、生活設計を行うために必要な知識を身につけている。	授業観察 プリント ワークシート 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。